

## 文化祭（10月7日）

10月7日（金）に3年ぶりの文化祭が行われました。1年生につきましては、日程を変更しましたので、舞台発表のトップバッターは2年生による合唱と群読でした。3年生のソーランに刺激を受けたという2年生が、先輩からのバトンを受け継ぎ、力強く、そして心のそろった合唱と群読を聞かせてくれました。まず入場時から張りつめた緊張感で、20分間という長時間でも一切姿勢がぶれないすごい集中力に、見ている方も背筋が伸びる思いがしました。1曲目の「Cosmos」はタイトルどおり宇宙という壮大なテーマの中に「君」という一番身近な存在の大切さが歌われていました。「君も星だよ。みんなみんな。」という歌詞を聞いて、星も人間も限りある命であり、今を大事にしなければいけないと感じました。

群読も声がよく揃っており、学年のこれまでの歩みとクラスで大事にしていることがよく分かりました。そして何よりも「～でありたい」という第48期生の決意の強さを感じられたことが嬉しかったです。

そして最後の曲「正解」は、友情をテーマにした曲で、あらゆることに正解を見つ出すのが難しく、友達との仲直りの仕方ひとつであっても大いに悩み苦しむ。そんな青春真っただ中の2年生が日頃感じていることそのものであるからこそ、すごく感情移入して歌っているのが伝わってきて、とても感動しました。

続いては3年生による合唱と群読でした。3年生にとっては最初で最後の文化祭になりました。先に発表した2年生から刺激を受け、最上級生としてのプライドと気迫が感じられる発表だったように思います。群読は、分散登校で始まり6月になって初めて全員が顔を揃えるというイレギュラーなスタートの中、3年生がどのようにして団結を深めてきたのかがよく伝わってくるものでした。

合唱曲の「群青」はご存じの方も多いと思いますが、東日本大震災で被災した福島県の中学生在が作詞し、その学校の音楽の先生が作曲した曲です。大事な人を亡くした悲しみ、慣れない避難所生活など、想像できないほど過酷な環境の中で、傷つき歌うことができなくなった生徒たちに、自分たちの町を象徴する色である「群青」をテーマに生徒たちの言葉を紡いで作られました。3年生からは「この詩の意味が理解できて、合唱が更に良くなった」と聞いていました。確かに本番の合唱は、同年代の仲間の苦しみと、それを共にした仲間との再会を誓う気持ちに、3年生が共感していることが伝わる素晴らしい合唱だったと思います。

午前の部の最後は美術部によるアニメーション作品の発表でした。人形のコマ撮りという恐ろしく手間の作業を経て、あのようにストーリー性を持たせた作品を創りあげたことが凄いと思いました。先生のゲスト出演もあり、とても楽しませてもらいました。また様々なイラストを音楽に乗せて見せていく作品は、正にミュージックビデオと呼べるような仕上がりでした。作った生徒それぞれの個性もよく出ていて、こんなにも感性豊かな生徒がたくさんいることにとても驚きました。

舞台発表の最後を飾るのは吹奏楽部の演奏でした。「エンターテインメント・ショー」

の名のとおり、文化祭の最後を最高に楽しませてくれました。「ティル・ナ・ノグ」は今年の吹奏楽コンクールの地区大会で金賞を取った曲でした。さすが繊細なパートからダイナミックなパートまで緻密に表現されており、正に白眉の出来だったと思います。当日は舞台設置の関係で打楽器が前方にきていることもあり、「故郷の空」やアンコールの「マツケンサンバ」ではリズムが強く感じられ、聞いている者の心も弾ませてくれるような演奏だったように思います。そんな演奏を盛り上げようと手拍子や声援を送る生徒たちの振る舞いも素晴らしかったです。

展示については、1年生は平和レポートと宿泊学習新聞の展示でした。平和レポートはどの学年もそうでしたが、世界情勢からロシアとウクライナの戦争について調べている人が多かった印象です。特に目を引いたのは、核の危険性をテーマに世界の核兵器保有数を調べ、第3次世界大戦への危惧と自分たちがすべきことについて述べているもの、戦争についての各国の気持ちや反省というところに着目し、戦勝国は自信を強め戦争を繰り返す、敗戦国は次は負けまいと戦争をするという悪循環を断ち切り、過去の歴史に学び、未来に生かせる教訓を引き出すことが大事だと述べているもの、ロシアとウクライナの戦争が起こるまでまだ世界に戦争があることを知らなかったという自身の反省から、世界の紛争を調べ、資源の奪い合いに要因が大きいことを突き止め、衝突というのは起こり得るが、その解決手段に何を選ぶかが大事だと述べているものなどでした。

2年生の展示は、平和レポートと職業調べレポート、及びタレントショーの様子でした。まず平和レポートで目を引いたのは、戦時中の人々の生活に着目し、軍による食料の供出命令のため、十分な栄養を摂取できなかったことの証明として、戦前、戦中、そして現在の小中学生の平均身長と体重を比較して検証しているものや、憲法第9条について、改正賛成と反対の2つの意見がどうして出てくるのか、それぞれの主張を分かりやすくまとめた上で、自身の考えを述べているもの、そして「今って平和？」と疑問を投げかけ、日本はロシアとウクライナのように戦争こそしていないが、阿部元首相の銃撃事件が起きており、戦争がないというだけでなく、人権が保障され、政治的暴力や明らかな不公平のない世の中を作らなければいけないと述べているものなどでした。職業レポートは、本当に沢山の職種について調べられており、例えば馬のひづめの調整や蹄鉄を打つ「装蹄師」という職業や、ネイチャーガイド、動物保護施設の職員など、あまり知られていない仕事も多く、中でも甲子園に行った際、グラウンドの整備状態が素晴らしいことに感動し、全力でプレーする選手のお手伝いをする「阪神園芸」という会社の仕事について調べたレポートは秀逸でした。

3年生の展示は、平和レポートと修学旅行の班新聞、それと学校生活の様子を記録したビデオの上演でした。修学旅行で実際に長崎に行って学んだことを盛り込んだ平和レポートは、内容も充実しておりさすが3年生だと感じました。特に目を引いたのは、戦争体験の語り部の今後について着目し、1万人以上の犠牲者が出た都市において、あとのぐらいい間活動を維持できるのかということを検証し、直接お話を聞けることの貴重さについて述べているものや、現在の紛争における少年兵の問題を取り上げ、十分な栄養を摂取できず、5人に2人は小学校教育を修了することすらできていない現実について調べているもの、広島原爆で中学1年生8千人の内6千人以上が犠牲になった

事実を取り上げ、その原因や被害状況を証言を交えレポートにまとめているもの、そして長崎市長の平和宣言を題材に、修学旅行で聞き取りさせていただいた羽田先生の言葉を織り交ぜながら、自身の見解と平和への思いを述べているものなどでした。

美術の授業における作品展示においては、まず1年生の擬態化したカメレオンの絵が、工夫を凝らし、美術室あちこちに展示されていました。私が気に入ったのは、カメレオンを机と教科書の一部とうまく同化させていたものと、教室の壁にある落書きの色まで見事にカメレオンと合わせているもの、そしてロッカーの前面と側面に折り返して貼り付け、色も見事に合わせているものなどでした。

2年生の展示は「オリジナル書体」ですが、私が気に入ったのは、血のしたたる様子がとても怖そうな「ホラー体」や、ネーミングのセンスがよく、物の形を上手く書体に盛り込んだ「空想生物体」と「食べ体」、そしてあの有名ドーナツの形を上手く文字と同化させた「ボンデリング体」でした。

3年生の透視図法を使った構成の作品は、デザインとして素晴らしく、空中都市や積み木、沢山の立方体の浮遊、ドミノの連続などを連想させ、大変芸術性の高いものだと感じました。もう一つの展示ある「ダジャレかるた」について私が気に入ったのは、イラストもダジャレを上手く連想させるようよく描けている「タコを買った子」をはじめ、いかにもサラリーマンが「仕事サボったってん」といわんばかりにタバコをふかしている姿がおかしい「サボテンさぼってん」、そして西部劇に出てくるような場所で、馬が穴に落ちて埋まってしまっている様子が、絵画としてもよく描けている「馬が埋まっている」などでした。

美術部の展示については、まず教室に入ってすぐの黒板アートに目を奪われました。色づかいも素晴らしく、それぞれのキャラクターの表情も豊かで、文字にもイラストを組み合わせている点も良かったです。あと額縁に入れて掲示したりファイリングされているポートレートはお気に入りのアニメや漫画のキャラクターか何かでしょうか。生徒たちが本当に好きで描いていることがとてもよく伝わってくる力作ぞろいでした。

家庭科部の展示は、ペットボトルケースや手提げかばん、ぬいぐるみ、ハンカチ、カゴなど、どれもとても丁寧に作り込まれているのがよく分かるものばかりでした。そしてそのどれもが実用的である点も素晴らしいと思いました。今や百均でいろんなものが買える時代であり、ペットボトルケースや手提げかばんももちろん売っていますが、自分で作った作品は世界に一つだけであり、愛着も全然違うと思います。大事に使い続けるようにしてほしいと思います。

どの演目も作品も生徒たちの思いが詰まっており、3年ぶりにふさわしい充実した文化祭だったと思います。お忙しい中ご来校いただいた保護者の皆様方、本当にありがとうございました。



